

大間原子力発電所に係る要望

北海道
海館
北函

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、巨大な津波が発生した。東京電力株式会社福島第一原子力発電所では、原子炉は停止したものの冷却系が正常に作動しなかったことをきっかけとする放射性物質が大量に放出される重大な事故となり、立地地域のみならず広範囲に影響を及ぼすとともに、地域住民をはじめ、道民に大きな不安を与えているところである。

電源開発株式会社が青森県大間町に建設している大間原子力発電所は、現在、建設を中断しているが、国では、建設継続の必要性を強調しているとも聞いており、国において、国民の不安に真摯に向き合い、原子力発電所等に対する安全と安心が図られるよう、次のとおり要請する。

平成23年6月

北海道知事 高橋 はるみ
函館市長 工藤 壽樹

大間原子力発電所の建設に係る要望項目

1 大間原子力発電所における安全確保

今回の福島第一原子力発電所の事故では、避難区域等が半径20 km を超える区域に設定されており、大間原子力発電所にあてはめると、道南域が避難区域等の範囲内となり、函館市民や道民の多くが不安を抱いている状況にある。

このため、道民の安全・安心を図る観点から、福島第一原子力発電所の事故を踏まえた大間発電所における安全確保の取組などについて、事業者である電源開発株式会社として、立地周辺住民はもとより函館市民をはじめ、道民に対してもしっかりと説明を行うこと。